

視聴覚教育

NO. 417

発行日

27. 11. 30

発行

岡崎市 A V L

編集

現職研修委員会

学習情報部

これ知ってる!?

「エッジ」

Windows10 から新しく標準搭載された Web ブラウザー。今まで搭載されてきたインターネットエクスプローラー (IE) に変わるソフトである。IE とエッジはにているように見えるが、実際の機能はかなり変わっている。

● 視聴覚教育あれこれ ● 第五回 TAV 「教室 PC を使ってみよう」

夏季休業中に、全小中学校の教室 PC が更新された。それにともない、学習情報部自主研修サークル「TAV」では、「教室 PC を使ってみよう」と題して、新しい教室 PC の使い方の講習を行った。

講習では、まず新しい教室 PC の仕様変更点について伝えられた。新 PC では、キーボード、マウスともにワイヤレスに変更されたことで、PC 周りのケーブルがなくなりすっきりするとともに、PC 本体を外に引っぱり出さなくても利用できる環境が整った。また、SSD 化により、起動にかかる時間が大幅に短縮された。さらに、キーボード操作によって電源を入れることができるなど、様々な点で以前の教室 PC より格段に使いやすくなったといえる。

加えて、ストッブウオッチ機能がさらに使いやすく改善されたことや、先生方の希望が多かった Microsoft Office2013 がインストールされるなど、ソフトウエアの面においても大幅な強化がなされた。講習では、そういった利点についての説明の後、グループに分かれ、実際に操作をすることで、参加者に新 PC についての理解をより深めてもらった。参加者からは「この場にきてくださったのを知ることができた。来てよかった」など、参加を喜ぶ声を多く聞くことができた。



今回の教室 PC の更新には、私たち教師の意見が盛り込まれ、格段に使い勝手がよくなっている。私たちは、その特性を十分に把握して児童生徒の活動を活性化し、思考をより深められる授業を創造していかなくてはならない。今後も学習情報部自主研修サークルでは、このような支援を積極的に行い、よい授業の創造に貢献していきたい。

情報センターとしての

視聴覚ライブラリーのさらなる活用を!

現職研修委員会学習情報部長 名倉嘉章

今、全国各地の自治体にある視聴覚センターや視聴覚ライブラリーの活動が、衰退と発展の方向に二極化が進んでいると言われている。

特に、貸出業務一辺倒に重点をおいている視聴覚センターやライブラリーは、ICT 活用の新たな流れの中で、16 ミリ映画やビデオテープなどの視聴覚メディアに対するニーズの減少、自治体における予算削減や組織統合などにより衰退傾向にある。それに対し、ICT 社会における存在価値が明確で、新たなメディアコミュニティにおけるサポーターとしての活動に重点をおいている視聴覚センターやライブラリーは、地域でまさにその必要性が増し、発展している。

岡崎市視聴覚ライブラリーは、まさに後者の先駆けともいえるべき存在である。学校教育・社会教育活動におけるメディアの貸出しや利用の支援はもとより、地域に根付いたコンテンツの制作とその活用、メディア活用のための講師派遣、全国でもいち早く VOD (ビデオ・オン・デマンド) の仕組みを構築した CATV 等への配信、ICT メディア貸出し、各種講習会の実

施、ICT 活用のための相談活動、地域素材の収集・保管、メディアコンタクトの実施、情報モラル指導の講師派遣、放送教育の研究拠点、広報紙・研究誌などの広報活動、予約配信システムを備えたホームページの運用など、岡崎市視聴覚ライブラリーが行っている業務は、実に幅が広い。

昨年度、岡崎市視聴覚ライブラリーは創立 60 周年を迎えた。こうした ICT 社会に対応した組織としての礎を築いてきたのは、役所の一部署としてではなく、任意団体として発足させた先人たちの意思を受け継ぐ、時代を読み取る先見性によるものと考えている。

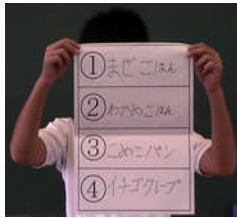
現在、学校現場では、「ICT 活用による教育の質の向上」が問われている。先日行われた、岡崎市教育委員会「ICT を活用した 21 世紀型授業の創造」の研究委嘱校である葵中学校の授業研究協議会においては、一般の教師による普段使いの ICT 活用の姿が見られた。そうした支援を日常的に行えるのも岡崎市視聴覚ライブラリーの特色の一つである。

生涯学習社会における先進の情報センターとして、岡崎市視聴覚ライブラリーの、今後におけるますますの活用を期待したい。

実践報告Ⅱ 自主性を生かした放送委員会の活動

六ツ美北部小学校 山内 哲也

学校みんなのために、放送委員としてできることは何だろう。私は、放送委員会の活動で子供たちに問いかけた。普段の昼の放送では、給食の献立を紹介したり、音楽を流したりしているが、さらに活動の質を高めたいと考え、子供たちが自ら創り上げる番組制作を提案した。すると、子供たちから「先生たちをもっと知ってもらいたい」「先生クイズ」を作りたい」という意見が出て、制作に取り組むことになった。はじめに、クイズの問題作りから話し合った。「先生を知ってもらうためには、どんなクイズの構成がよいのだろう」と、視聴する側の視点から意見が交換された。その結果、一問目は教師の写真を見せて名前を問う問題とし、残りの二問は出演する教師が質問に答え、その答えを四つの選択肢から選ぶ形式にした。質問の内容は教師のことをもつて作られた。もろうために最適な質問を子供たちが話し合っ



○先生好きな給食は何でしょう？

Ⅱレッツ・トライⅡ

小学校一年生からのパソコン利用

情報化が加速している現代社会。そこで育っていく子供たちには、低学年からICT機器の正しく安全な使い方を理解し、有効に利用する力を身に付けることが求められている。今年担任している一年生では、パソコンに初めて触れる子供は学級の三分の一である。これは、使ったことがある子供が多いだろうと予想していた私にとつて驚きだった。よく調べてみると、パソコンよりもタッチパネル式のスマートフォンなどを慣れ親しんでいるようである。

そこで本学級では、まずパソコンの扱いに慣れさせることを目指し、パソコン室の利用の仕方、マウスやキーボードの操作方法を、楽しみながら身につけられる学習活動を計画した。パソコン室の基本的な使い方や約束事を指導した後、「キューブきつず4」の「らくらく・レッスン」を利用してマウス操作を身に付けるための活動を行った。「マウスレッスン」では、マウスの持ち方や動かし方はもちろん、クリックやダブルクリック、ドラッグといった基本的なマウス操作が練習できるようにしている。この「マウスレッスン」の良さは、可愛いねずみのキャラクターがにんじんを抜いたり（クリック）、宝箱を開けたり（ダブルクリック）して楽しみながら学べる点にある。

授業では、パソコンの操作に慣れている子が「こうするんだよ」と困っている子に積極的に教える姿を見ることができた。低学年だからこそ、パソコンを積極的に利用させたい。ICT機器の、正しく安全な使い方を身に付けさせ、これからの社会を生き抜く力を育てよう。



(男川小学校 学習情報主任 萩原光彦)

ライブブライリーだよ

視聴覚ライブラリーの教材紹介

使える教材

小学理科 4年(DVD)
⑥自然の中の水

小学理科 5年(DVD)
③人のたんじょう

中学校 情報モラル教育
ネットワーク時代の情報モラル

高校入試面接対策シリーズ
②面接マナーの基本を身につける

高校入試面接対策シリーズ
③自己プレゼンテーションとは

貸出し・返却には巡回郵便が使えます。予約はHPか電話で。



●第13回ふるさと岡崎

メディアコンクルの応募締め切り迫る「ふるさと岡崎メディアコンクル」の募集締め切りが十二月四日(金)に迫っています。応募要項や応募票は岡崎市視聴覚ライブラリーのHPにあります。(http://www.oav.jp/) たくさんの方の応募をお待ちしています。

※お問い合わせ先 電話二三一六七八九